

平成 28 年度 第1回南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 28 年 7 月 27 日 (水) 午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
会 場	南区役所 4階講堂
出席者	南区自治協議会委員 23 名 教育委員:吉村教育委員、藤田教育委員 事務局:高島教育次長、教育総務課長、地域教育推進課長、 学校支援課長補佐、白根地区公民館長、白根図書館長、 南区教育支援センター所長 他 4 名 南区役所:地域課長、同課長補佐 傍聴者:2名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(吉村教育委員、藤田教育委員) 3 平成 28 年度教育委員会の施策について(高島教育次長) 4 意見交換(司会 南区教育支援センター所長) 主な視点 ・より良い地域づくりのために、地域の皆さんと、公民館などの社会教育施設や学校とが協働してできることは ・地域で子どもを育てるために、地域と学校の関わりからみてきた現状、今後の必要と考える取組
自治協委員	今、事故や事件が起きたときは必ず教育関係者は口をつぐみ、問題をできる限り露出しないようにする。今日出席のお二人の教育委員は、県や市の職員といった行政ではなく、民間の方で、教育現場の人と袖をすり合うようなことは、ないと思われるがいかがお考えか。 今の先生は、一般教養はレベルが高く優秀。しかし、社会教養(社会性)を身に着けていないことがある。小学校は一般教育・生活指導・道徳を同じ担任の先生が教えている。経済が不安定で悪化しているときに、一人の先生が全てをというのは難しい。この3つを分離して教育してはどうか。たとえば、道徳はお坊さんとか、そういう背景を持った方から指導いただけたら良いと思う。教育委員会として、学校への指導はどうあるべきかお聞きしたい。
教育委員	残念ながら事故や事件が起こった場合の反省を踏まえ、しっかり公表すべきところは公表するということが、新潟市のみならず全国的に問題があり、盛んに言われているところです。学校が隠匿体質に陥ってはならないと、第三者委員会などの立ち上げ方や、大学の先生や心理学者などに学校に入っただき、実態の解明にあたるような組織の作り方を工夫しているところです。いろいろな角度から隠匿するような体質をなくしたいし、有ってはならないと思います。 次に一般教育と生徒指導、あるいは道徳などについてです。年間の計画の中で、お話のありました住職に来ていただき講話していただき、企業の方から来ていただき道徳的な観点から講話いただくこともあると思います。一方的な非難、方

教育委員	<p>向性に偏らないで、様々な人の指導を仰ごうという姿勢はあると思います。</p> <p>事件や事故があるたびに、事務局から連絡を受けています。</p> <p>教育・生徒指導・道徳を学校だけでやることは、個人的に難しいと思っています。</p> <p>このために「地域と学校パートナーシップ事業」があり、子どもたちは、地域の人たちのふれあいの中でたくさん学んでいます。この事業を通して、地域の方からも子どもたちに教えていくことが良いと思います。</p>
自治協委員	<p>教育委員は、議会の承認があり市長に任命された方々。これからも、大所高所から教育を正しい方向に進めていただきたいし、そうされると信じている。</p> <p>教育次長にも聞きたい。勉強できる子、スポーツができる子と様々だが、どの子にも適正に生きる場がある。指導者をそれぞれ分けるということはだめなのか。</p>
教育次長	<p>色々な個性を持った子どもたちに合わせて見守っていくことは、本当に大事なことです。画一的にやるのではなく、それぞれの持っている個性の良いところを伸ばすという姿勢が大切です。それを学校現場と共通に認識していますし、学校もそのように日々子どもたちと接していると思います。</p> <p>外部の方や地域の方から来ていただいて、ものの考え方や、こういうことを大事にしたほうが良いということ、大事な視点として取り入れていかなければならないと考えています。</p>
自治協委員	<p>お話のとおり、全てを学校がやらなければならないというのではなく、学校も頑張るし、地域の色々な方と総力を挙げて子どもたちを育てていくことが大事だと思います。</p> <p>ふれあいスクールは月潟でやっているが、他の地域ではやらないのか。</p> <p>地域と学校パートナーシップ事業で、学校支援ボランティアが延べ 17, 531 人と多くの方が参加している。どういうボランティアがあって、どのような活動をしているかを広く周知すれば、「これだったら自分もできる。」と参加者が増えると思う。募集などのシステムをしっかりと公表していただくとありがたい。</p>
教育委員会事務局	<p>南区では、月潟小学校から非常に楽しいふれあいの場を提供してもらっています。市内未実施の学校には照会をかけ、希望があったところには要望がかなうよう手配しています。今年度は赤塚小学校の1校が増えますが、ほかに手を挙げたところはありません。理由として、南区では、校区が広く大変であること、近くに児童館や公民館があり、似たような事業をしていることがあげられています。</p> <p>学校支援ボランティアの募集については、学校だよりで配ったり、回覧板で回したりしています。また、ボランティア同士の口伝えで登録されています。年々こういう形でボランティアが増えてきている状態です。</p>
自治協委員	<p>学校教育の中で、地域の方から学べる環境は、素晴らしいと思います。</p> <p>ミーティングのテーマと異なりますが伺います。まず、資料の基本施策にある「人権を守り共に支えあう社会の推進」がありますが、今年4月に「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」が施行されました。また、「障害者虐待防止法」が施行されています。これらの条例などが施行されているなか、先生方の指導、子どもたちへの指導では、どのような取り組みをされているか教えていただきたい。</p>

教育委員会 事務局	<p>もう一点。白根高校が廃止されると、高校がない区になります。教育委員の皆さんはどのような感想をお持ちかお聞きしたい。</p> <p>障害者に関する条例については、法令ができる準備段階から、教員に細かく指示し、理解を求めよう説明しました。施行後は中身を検討し、実際にどのような対応をしていくか具体的に決めています。子どもたちへの指導については、保護者と一緒に考えて、それぞれの子どもにとって一番良いことはどういうことか、考えながら進めています。</p>
教育委員	<p>また、昨年一年間をかけて福祉読本をつくり、子どもたちに配布しました。今年春からは、その副読本を使って、理解を深めるよう動き出しています。</p> <p>白根高校が廃校になるとは聞いていません。今年4月から、残念ながら一学級減でスタートしているが、少なくとも向こう2年間はそのままだと思います。それ以降は、県教委は「改組」とか「統合」という言葉を使っています。心配なことではありますが、廃校については、まだ話を聞いていません。</p>
自治協委員	<p>白根高校のイメージは、武道で頑張る高校生の姿や、地域に貢献する方々を多数輩出していること。地域の文化、歴史、教育に大事な立場であり、存在であることは重々承知しています。新潟市が設置者ではないが、教育関係の会議など、機会あるごとに県教委へ伝えたい。そして地域からも、継続して県へ声を上げてほしい。</p> <p>将来的に南区に高校がなくなる、南区から高校が消えてしまうことがないように精一杯働きかけていきたいと思っています。</p>
教育委員	<p>二ヵ月前に、新潟日報で「10年以内で廃校になるリスト」に白根高校が載っていた。是非、教育委員のお力添えをお願いしたい。</p> <p>新潟県教育委員会は全県的に、少子化問題とか高校生のニーズに合った高校を作るということで、再編を考えているようです。2つの高校の長所を生かしての統合、新しい形の高校を立ち上げるなど、十分あり得ること。</p>
自治協委員	<p>南区に高等教育の光を消してはならないとしっかりと意見を言いながら、地元からの支援もお願いしなければならないと思っています。</p> <p>学校と地域の関係はうまくいっている。しかし、学校予算が非常に削減されていると聞いた。</p> <p>中学校であればクラブ活動、遠征のためのバス代。小学校ではスキー教室などでバスを使うが、大手の業者はバス代が高くなり、保護者のほか地域のコミ協に援助の依頼がある。また、プールの消毒液購入の費用も依頼がある。地域に頼まなくても学校予算でできないものか。</p>
教育委員会 事務局	<p>昨日の相模原の事件の犯人は26歳、ちょうど「ゆとり教育」が始まった年代。ゆとり教育の弊害もあるのではないか。</p> <p>教育委員は、現場の先生方の話を聞くために、学校に足繁く通っていくことが大事。区の担当委員を1区2人制にしたことで、どの程度学校に通うことが多くなったかをお聞きしたい。</p> <p>学校予算については、優先順位をつけながら予算化しています。</p> <p>新潟市全体の予算が厳しい状況の中で、体験学習等のバス代補助も含め、優</p>

教育委員会
事務局

先順位をつけながら実際に配慮している状況です。プールの消毒液購入については、学校配当予算が縮小しているため、学校に様々な工夫をお願いしている状況ではありますが、水泳授業に支障にならないよう予算付けしています。

「ゆとり教育」については、10年前から全部改められています。

新潟市は、「大好きにいがた体験事業」の味方小学校の例のように、地域の方々と関わりながら色々なことを教わっています。また、地域と学校パートナーシップ事業は10年目を迎えています。地域の方々から教わることで、子どもの心を育てる教育につながっています。

白根小学校の凧の取り組みからも、凧づくりを地元の方から教えてもらい、自分たちも凧合戦に参加する。そのような取り組みから地域の良さ、人の素晴らしさや愛情を感じることで、子どもたちは決して荒んだ心を持たないと思います。

昨年、白南中学校生徒の提案事業により、大凧合戦にクルーズ船を呼んだという素晴らしい取り組みがありました。地域の方に入っていただき、お手伝いいただいたことで、そういう成果から子どもたちは力をつけていくと思います。

教育委員

教育委員を8人に増やし、区担当制にしたことにより、間違いなく学校や地域に訪問する回数は増えました。ただ、あまり教育委員が訪問すると、学校活動を邪魔してしまうこともありますので、学校の負担にならない範囲でお伺いしています。

一人一人の先生が素晴らしい先生であることが、イコール子どもたちの成長につながることから、学校に行って先生方の声を聞くなど、今後もこの取り組みが充実するよう精一杯努めたいと思っています。

「ゆとり教育」についてですが、「学力の向上」ということと「豊かな心を育てる」ということ、この2つを常に新潟市の教育の命題と考えています。「ゆとり教育」の反省する部分もありますが、悪かったか、良かったかということは何ともいえないところです。以前のように土曜の授業が復活するかは分かりませんが、そういう時には良い方法を考えなければならぬと考えています。

教育委員

私の子どもは「ゆとり教育」で育っています。その教育で育った子どもたちは、とても気持ちがやさしい子どもたちが多いと感じています。また、人の話をよく聞くのが好きです。

今の子どもたちは地域の方の話をととてもよく聞きます。時に地域の方々は本気出して怒ってくれる。是非、地域の方々に地域の子どもたちを育てていただけたらと思います。

議 事

5 南区自治協議会会長挨拶

担当教育委員から真摯なお言葉を聞きすることができて、とても良い機会だったと思います。

こちらの会場に来るとき、蝉取りをしている小学生を見かけました。かごにいっぱい蝉が入っていて、誰に教わったのと聞くと「おじいちゃんから」とニコニコして言っていました。

子どもはおじいちゃんであれ、おばあちゃんであれ、地域の大人であれ、先生であれ、色々な人から一つ一つを学びながら大きくなっています。そういう体験が大

事だと思えます。

相模原の事件について感じたことは、その男性がある希望がそこで絶えて、希望がかなえられなくなったため、何かが曲がってしまったようだと報道がありました。一つ挫折しても次にまた頑張ろうという「強い心を持つ教育」も必要なのではと思います。挫折することも一つの経験。誰かの声掛けによって、あるいは、誰かと一緒にいることによって立ち直っていける。たくさんの周りの方々の力が必要になってくると思いながら、とても、教育は大変なものだと思いました。

6 閉会